

○深谷秀峰議長 次に、8番平山晶邦議員の発言を許します。平山晶邦議員。

〔8番 平山晶邦議員 登壇〕

○8番（平山晶邦議員） 平山晶邦です。議長のお許しをいただきましたので、一般質問を行います。

市民の皆様と話をしていると、「この班内に小学生が一人もいなくなっちゃったよ」とか、「子どもが那珂市に家を作っちゃったから、この家も私の代で終わりになっちゃう。市に畑や田んぼや土地を寄附できないかなと」か、「空き家が多くて防災上危ないから、市役所で整理してくれないか」、「運転ができなくなったらどうしよう。ここに住んでいたら、買い物にも医者にも行けないよ」などという、若いときは考えなかった、本市に住んでいることの漠然的な不安を口にされる方が多くいます。

市民との会話を思うと、地域振興などというレベルやパフォーマンスだけでは、これからの常陸太田市が置かれている状況を好転することは難しいのではないかと考えてしまいます。石破地方創生相も、「今回の地方創生に失敗すれば、日本が衰亡に向かう」と言っているとおり、大変厳しい状況の中に、今、私たちがいることを自覚していかなければならないと思います。

5万人弱の市の行政運営が、一番難しいと言われていています。この10年で6万人から5万人になってしまった常陸太田市の行政にかかわる私たちは、本市の未来に責任を持った職務を行うことを市民に約束していかなければならないと思います。以上のことを前段で申し上げ、質問に入ります。

第1の質問は、今後の地域公共交通についてお伺いをいたします。

県内においても、常陸太田市は急速な少子化や高齢化や人口減少が進展する地域となっています。私は、このような地域の中で地域社会の活力を少しでも維持するためには、今後、地域公共交通の果たす役割は大きいものがあると考えています。国も、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の一部の改正を行い、今回、本市がこの法律にのっとって地域公共交通の再生を推進することは、本市にとって大変重要なことであると思います。本市が27年度にその事業を行い、今後の持続可能な公共交通のあり方を考え、実行することは、まことに時宜を得た施策の推進であると考えます。

そこで、地域公共交通について伺います。

1つとして、現在の本市の公共交通の課題はどのように捉えているのかをお伺いいたします。

2つ目として、今回予算にも計上した地域公共交通網形成計画と今後のスケジュールを、予定している範囲で結構でございますのでお伺いをいたします。

3つ目として、今回の国交省の地域公共交通の再定義は地方公共団体が先頭に立って、関係者との合意のもとで、5年10年とかかるまちづくり等の地域戦略と一体で、持続可能な地域公共交通ネットワークサービスを形成することとうたっておりますが、まちづくり等との地域戦略との一体化はどのように図っていくのかについてお伺いをいたします。

第1の質問の地域公共交通については以上でございます。

第2の質問は、少子化から考察する市内の高校進学状況についてお伺いをいたします。

常陸太田市は、人口減少対策、定住促進、少子化対策の中で、「住むんだったら常陸太田」の合言葉の中、2年前からさまざまな施策を実施しております。今回、県内の他の市町村においても、人口減少、少子化の中で、本市と同じような施策を27年度予算の中に取り入れてきました。まるで、減少する人口を県内市町村が奪い合いをしているように感じられます。そのような県内状況の中で、5万人の規模の市で県立高校が3校あるのは、常陸太田市においてほかにありません。

私は、市民から「若い高校生がまちを歩いているのを見ると、にぎやかさを感じる。常陸太田市には大学生はいないんだから、高校生までいなくなったらどうなるの」という心配する言葉をいただきました。そして、高校生は、本市の各種ボランティア活動や地域のコミュニティ活動に参加しています。このような本市の状況を考えると、市内に立地している高校は、中学生が入りたい、魅力ある高校でなければならないと思います。そのことは、少子化の中での本市の地域活力にとって大切なことではないでしょうか。

そこで、県立高校が3校もある恵まれた環境の中で、本市の高校進学状況はどのような状況になっているのかをお伺いいたします。

1つとして、市内の中学校を卒業後、市内の高校に残る進学者の割合はどのようになっているのかをお伺いいたします。

2つ目として、中学校において、なぜその高校に進学したいのかなどの高校進学アンケートなどはとっているのかをお伺いいたします。

3つ目として、県の教育委員会などと市内の県立高校のあり方などについて、意見交換などしているのかについてお伺いをいたします。

以上2項目について、1回目の質問といたします。

○深谷秀峰議長 答弁を求めます。政策企画部長。

〔加瀬智明政策企画部長 登壇〕

○加瀬智明政策企画部長 地域公共交通についてのご質問にお答えをいたします。

まず、現在の本市における公共交通の課題についてのご質問にお答えをいたします。

本市の公共交通は、広域交通としての鉄道でありますJR水郡線や高速バスのほか、市内及び周辺自治体間を結ぶ路線バス31路線、市内を運行する市民バス11路線、医療機関への通院手段として金砂郷、水府、里美地区で運行されております患者輸送バス「みどり号」14路線、常陸太田、金砂郷、水府地区における乗り合いタクシー、さらには里美地区における過疎地輸送運送など、各種公共交通が併存している状況でございます。

市町村合併以前の形態のまま運行を継続しているものもあることから、運行ルートなどのサービスエリアの重複、地域間における運賃、運行日、運行本数の違いなどによるサービス水準の公平性の問題が生じております。また、近年の急速な少子・高齢化や人口の減少等によって利用者の減少が続いており、それに伴う公共交通への市の負担額は、平成21年度が約9,669万7,000円のところ、平成25年度が約1億2,175万6,000円と年々増加している状況でございます。

したがいまして、サービスエリアの重複、サービス水準の公平性、市の財政負担の増加といった問題を解決し、公共交通の将来にわたって継続的に維持していくための、総合的かつ効率的で持続可能な地域公共交通体系の再構築が課題となっているところでございます。

次に、地域公共交通網形成計画についてのご質問にお答えをいたします。

本市の公共交通施策の推進に当たりましては、先ほどの既存課題への対応と同時に、本市にとって望ましい公共交通に対する方向性を関係者等との合意のもと、構築していくことが重要となってまいります。そのために、平成26年5月21日に改正されました「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき、計画策定に係る国庫補助事業の補助対象者となります法定協議会を立ち上げまして、関係者との協議を実施し、本市の公共交通体系の基本となります地域公共交通網形成計画を策定することとしております。

スケジュールといたしましては、平成27年度中に形成計画を策定するとともに、形成計画に基づき、再編事業に着手するために必要な地域公共交通再編実施計画を策定することとしており、平成28年10月を目途に、再編実施計画に基づいて、重複するサービスエリアの統廃合、路線の決定、サービス水準の見直し、またJR常陸太田駅や平成28年7月に完成予定であります道の駅の乗り継ぎ拠点化といった、公共交通体系の再編事業に着手する予定としております。

なお、計画策定のためには、公共交通の現状と課題を整理するとともに、市民の公共交通の利用実態やニーズ等を詳細に把握することにより、持続的な公共交通を構築し、地域に定着させることが重要であることから、市民の行動変容状況や利用意識、利用条件等について詳細、具体的に調査をし、それらの結果を基本として各計画を策定していきたいと考えております。

次に、まちづくり等の地域戦略との一体化をどう図るのかというご質問についてお答えをいたします。

地域公共交通網形成計画は、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の改正により、変更となりました基本方針に合致している必要があるとされております。その基本方針の1つといたしまして、まちづくり等の地域戦略との一体性の確保が必要であると示されております。来年度は、新たな市の総合計画の策定に着手するとともに、「まち・ひと・しごと創生法」に基づく市の総合戦略の策定を進めていくこととなっておりますことから、その中で観光振興、健康福祉等の施策との整合性、連携を行いながら、まちづくり等の地域戦略との一体化を図っていききたいと考えております。

○深谷秀峰議長 教育長。

〔中原一博教育長 登壇〕

○中原一博教育長 市内の高校進学状況に関するご質問にお答えいたします。

まず、市内の高校への進学者の割合でございますが、合併時の平成17年3月に市内の中学校を卒業した716名のうち、市内の太田一高、里美高校を含む太田二高、佐竹高校への進学者は352名で、進学者全体に占める割合は49%となっております。平成20年度は卒業した700名のうち、市内高校進学者は371名で53%、平成25年度は卒業した503名のうち、市内進学者は267名で53%であり、この9年間で生徒数は減少しているものの、この数年市内

高校への進学者の割合は、大きな変化は見られない状況でございます。卒業生全体で見ますと、県立高校への進学者の割合に対し、日立市や水戸市の私立高校への進学者の割合が微増の傾向にあります。

次に、高校進学のアナケートについてでございますが、市教育委員会としてアナケートは実施していませんが、志望校選択の理由といたしましては、進学先の高校の特色や進路実績、本人の学業成績や部活動でございます。また、地理的条件等を踏まえて決定している状況にあります。中学校においては、生徒一人ひとりに望ましい勤労観や職業観を育てることを目的としたキャリア教育や進路指導において、生徒が自分の夢や希望を実現させるために、日々の学習に主体的に取り組めるようにするとともに、自分のよさや個性を知り、将来の生き方を見据えながら進路を選択することができるよう、個別の相談や面談等を通して指導しているところでございます。

市内の各高校には、市内の中学校の校長も評議員としてかかわるなど意見交換の場がございますので、そのような機会を利用して、中学校での取り組みの様子や生徒の要望、願い等を伝えていくことで、各高校が進めている特色ある学校づくりに反映させていただきたいと考えております。そのため、生徒の高校選択の理由について、さらに実態を捉えるよう今後とも努めてまいります。

いずれにいたしましても、進学先につきましては、本人や保護者の希望や願いが優先されるものでありますことから、強く市内の高校のみに進学を促すことは厳しい、難しい現況でございます。しかしながら、地域の活性化の原動力として、勉学やスポーツ、ボランティア活動等における高校生の活躍は欠かせないものでございます。各高校とも中学校を訪問し、中学3年生を対象とした学校説明会や高校見学会を開催するなどして、自校の特色や教育実践内容等を説明し、入学者確保に努めているところでございます。

次に、市内の県立高校のあり方についての県教育委員会との意見交換についてでございますが、本市では、市内の3つの高校とも普通科が主たる学科がございますことから、生徒のニーズに合った特色ある学科の設置等についても、これまでも県に対して機会あるごとに伝えてまいりました。市内の生徒が地元の高校を選べるよう、今後とも市内の高校の特色を出した魅力ある環境づくりについて、それぞれの高等学校及び県に強く要望してまいりたいと考えております。

○深谷秀峰議長 平山議員。

〔8番 平山晶邦議員 質問者席へ〕

○8番（平山晶邦議員） 2回目の質問を行います。

1問目の今後の公共交通についての、1つ目の現在の課題についてはよく理解をいたしました。2つ目の公共交通網計画については、1点お聞きしたいことがあるんですが、他の市にまたがる公共交通、例えば今現在は廃線となってしまいましたが、バス路線で常陸太田水戸間というものが走っておりました。今は走っておりません。あと一つは、大宮市と常陸太田を結ぶ線とか、他の市と関係ある公共交通というものも今回の計画の中で検討されるのかについて、1点お伺いをいたします。

○深谷秀峰議長 政策企画部長。

○加瀬智明政策企画部長 お答えをいたします。

周辺自治体とつながるバス路線ということでございますが、乗客がいないことから廃止・休止となった路線がございます。当然そのような路線も今回の協議会の中で復活するとかそういうことではなく、必要性について検討、協議をしていく予定でございます。

以上でございます。

○深谷秀峰議長 平山議員。

○8番（平山晶邦議員） 理解をいたしました。

3つ目のまちづくり等の地域戦略との一体化は理解をいたしました。

1問目の質問について、要望を申し上げておきたいと思います。人間は誰しも年をとります。私も10年後、運転できる状態なのかはわかりません。これからはますます核家族化が進み、家族環境も大きく変化していくと思っています。できるだけ自分のことは自分で行っていかなければいけない時代を迎えると思います。そのとき常陸太田市は、公共交通を使って、ある程度の生活ができるまちになってほしいと私は思っています。

また、合併してから10年が過ぎました。今まで行ってきた公共交通の事業をリセットして、行政サービスもコストがかかるわけですから、さまざまな視点から見直しをしていただいて、市民のニーズに対応した公共交通のあり方を示していただきたいと強く思っています。県北では、国交省のこの事業に手を挙げているのは、常陸太田市以外にはまだないと思いますので、県内一広い面積を持つ、非常に行政効率が難しい、高齢者などの交通弱者が大変多い市ですが、それゆえ他の市町村のモデルとなるような交通体制を期待しております。執行部の皆さんにはぜひとも頑張って、よりよい公共交通網の整備をしていただきたいと要望をいたします。よろしく願いをいたします。

第2の質問の市内の高校の進学状況については、1つ目の高校進学者の割合について、約50%が市外の高校に進学する状況になっていることは理解をいたしました。常陸太田市の出生数、この6年ぐらい前から300人を割っている状況だと思います。23年は225人まで下がり、その後25年は258人でありました。258人の50%が市外の高校へ進学すると考えると、100人強の人しか市内の高校に残らないという、大変厳しい現実が控えているのかなという感じを持ちました。

2つ目の高校進学のアナケートであります。生徒の高校選択の理由についての実態を捉えて、市内の高校の皆さんと共有化を図ることは、私は大切なことだと思っております。生徒の要望に合う高校ができれば、その高校に入りたいという思いもそれだけ強くなるのかなと思います。県立高校が3校もあるんだけど、今のところ生徒の要望に応えられていないから、市外に出てしまっているという可能性も否定できません。答弁にあったような内容をこれからも進めていただきたいと思います。強く思います。

3つ目の県教育委員会との意見交換についてであります。市長とか教育長は、県の執行部の皆さんと意見交換をする機会が多いと思います。地域の活性化の問題は、高校の問題とも関係していることを会った折、強く訴えていただきたいと思っております。このままいけば、あと数年

後には、市内の中学生が市内の高校に100人前後しか残らない状況の中で、県立高校のあり方をどのように考えるのかというのは、大変大切なことであると思います。そのことを改めて、決意で結構でございますから、お聞かせいただきたいと思います。

○深谷秀峰議長 教育長。

○中原一博教育長 今後さらに進学する生徒の減少は本当に避けられない状況にありますので、市の教育委員会、市内の中学校長、市内3つの高校の校長等で意見交換の場を設けるなどして、常陸太田市にふさわしいこれからの市内の高校のあり方について探って、意見を集約して県に対して強く要望してまいりたいと考えております。

○深谷秀峰議長 平山議員。

○8番(平山晶邦議員) ありがとうございます。

この問題についても、私のほうから若干要望をしておきたいと思います。県北地域では、日立一高が5年前に2クラスの中高一貫校を作りました。5年前、80人前後の入学者に対して、その当時、約1,600人の人々が説明会に来たという話を伺っております。その結果が来年出てまいります。今のところは、聞いたところによりますと、素晴らしい成果を出していると聞いております。県南地域では、同時期に土浦、並木高校が中高一貫を行い、やはり成果を上げているふうなお話を聞いております。

先ほど来、出ております、特色ある魅力ある高校を作ることは大切で、多くの高校生が集う地域にはやはり活力が生まれることも事実だと思います。県立高校は県の管理でありますので、これ以上は申し上げませんが、ぜひとも市長、教育長には、地域の実情の中で、県に対して頑張っていたいただきたいと強く要望をし、質問を終わりたいと思います。

以上で私の一般質問を終わります。